

地域福祉に係るアンケート・ヒアリング調査結果報告書

(団体、事業者)

【わかりやすい版】

I 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、令和5年度に「第5期地域福祉計画」を策定するに当たり、福祉分野で活動されている団体並びに事業者の皆様へ、活動分野の状況や地域課題などに係るアンケート及びヒアリング調査を実施し、今後の計画策定に反映するため、実施しました。

2. 実施概要

(1) アンケート調査

種類	団体	事業者
配付	20 団体	30 事業者
回答	7 団体 (35.0%)	10 事業者 (33.3%)
対象	市内で活動する団体（高齢、障害、児童、生活困窮等の分野）	
配付・回答	調査票の郵送配付、郵送回答	
調査期間	令和4年12月14日～同月28日	

- アンケート調査の自由記述の意見については、主な意見（原文）を抜粋して掲載しています。なお、誤字や脱字と思われる表記、固有名詞に関しては、内容に影響を及ぼさない範囲で修正しています。

(2) ヒアリング調査

種類	団体	事業者
実施	4 団体	8 事業者
調査期間	令和5年2月13日～同月22日	

- ヒアリング調査結果については、ヒアリング内容を要約して掲載しています。



Ⅱ 団体アンケート調査結果

1. 貴団体のことについて

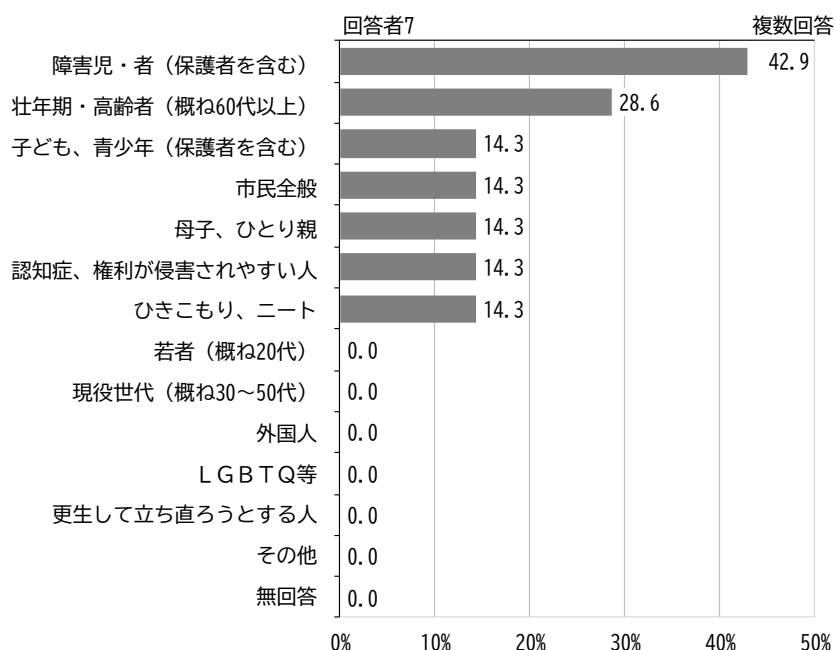
団体の名称、会員数、主な活動拠点等（結果は省略）

2. 貴団体の活動について

問1 市内における活動内容を教えてください。

ア 主な対象者・世帯（当てはまるもの全てに○）

市内における活動内容を教えてくださいについて、主な対象者・世帯は、「障害児・者（保護者を含む）」（42.9%）が最も多く、次いで「壮年期・高齢者（概ね60代以上）」（28.6%）が続いています。



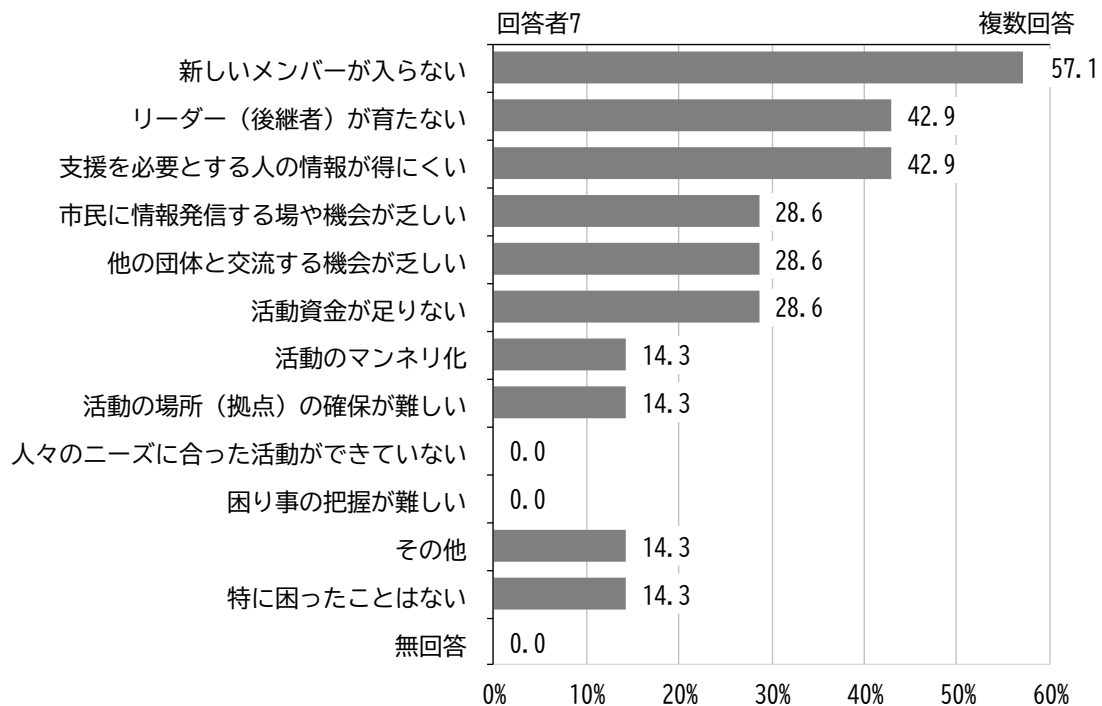
問3 貴団体の活動において、市民と一緒に、あるいは地域や他団体などと連携して取り組みたいことはありますか。（自由記述）

<意見>

- ✓ 知的、発達障害者についての理解啓発活動。
- ✓ 地域で行っている。例えばルピナス祭りや泉小わくわくデーなどに参加して交流を深める。
- ✓ ワークショップ（ボランティア研修）を企画して市民に参加していただく。

問6 貴団体が活動を行う上で、どのようなことに困っていますか。（当てはまるもの全てに○）

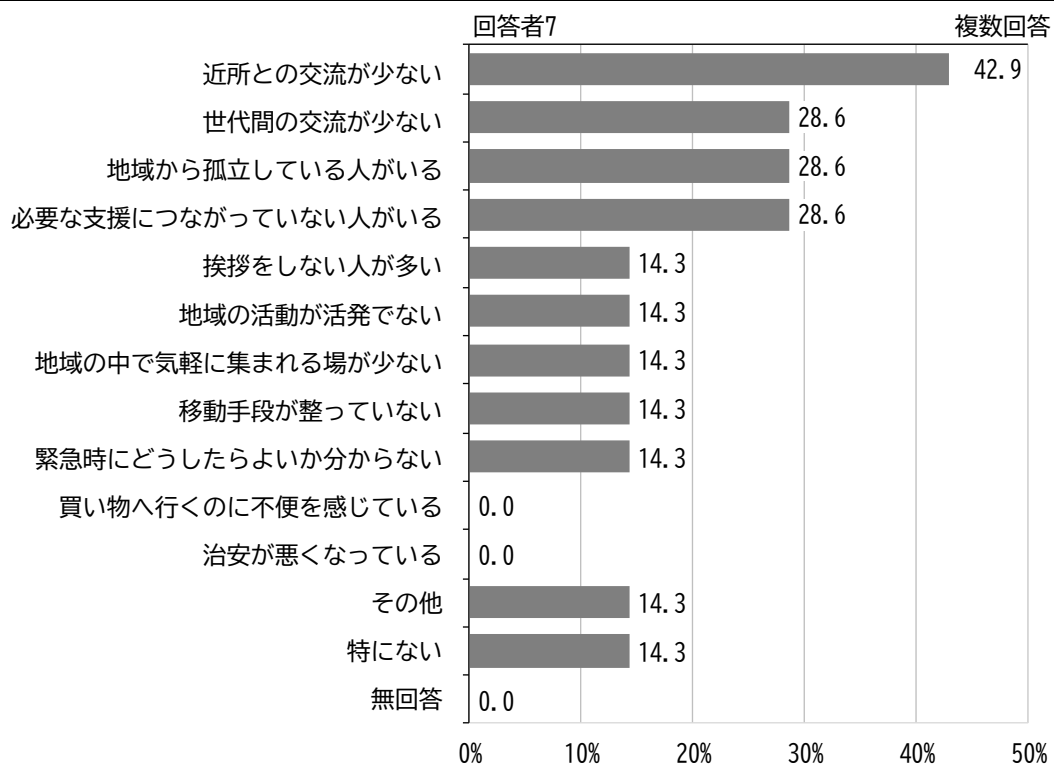
貴団体が活動を行う上で、どのようなことに困っていますかについて、「新しいメンバーが入らない」（57.1%）が最も多く、次いで「リーダー（後継者）が育たない」、「支援を必要とする人の情報が得にくい」（42.9%）となっています。



3. 活動を通して見える地域の状況について

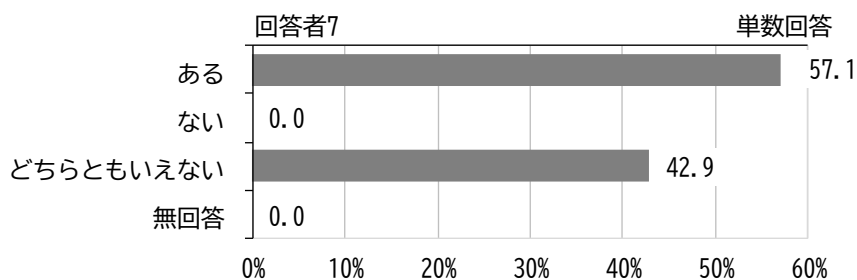
問9 地域の中で課題に感じることや、活動を通してよく聞く困り事は何ですか。（当てはまるもの全てに○）

地域の中で課題に感じることや、活動を通してよく聞く困り事は何ですかについて、「近所との交流が少ない」（42.9％）が最も多く、次いで「世代間の交流が少ない」、「地域から孤立している人がいる」、「必要な支援につながっていない人がいる」（28.6％）となっています。



問 10 既存の公的な福祉サービス（児童福祉サービス、障害福祉サービス、介護保険サービスなど）では解決できず困っている問題があると感じますか。（1つに○）

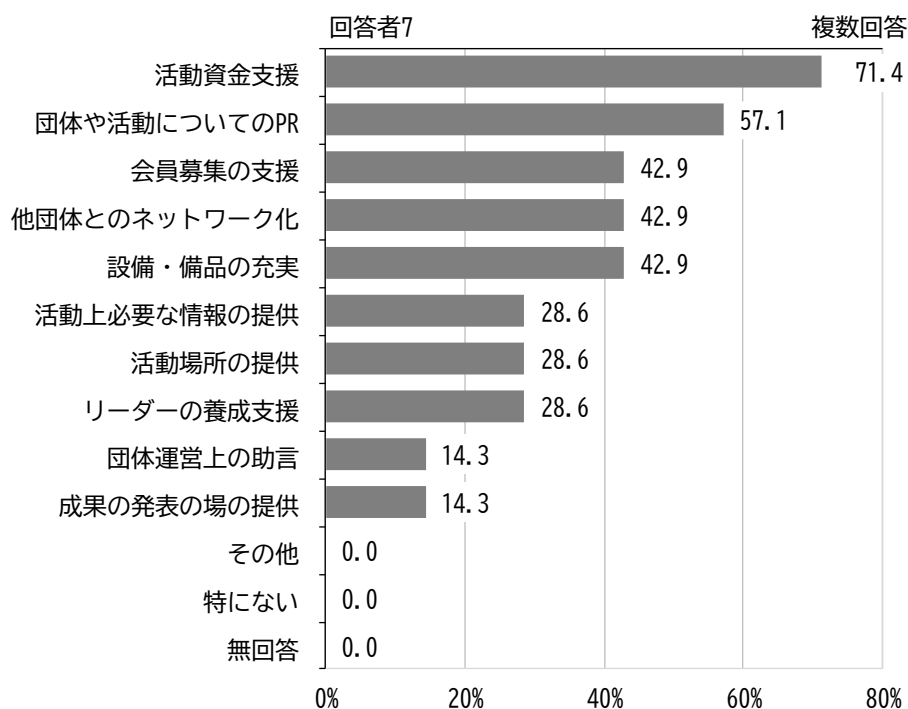
既存の公的な福祉サービス（児童福祉サービス、障害福祉サービス、介護保険サービスなど）で解決できず困っている問題があると感じていますかについて、「ある」（57.1%）が最も多く、次いで「どちらともいえない」（42.9%）となっており、「ない」と回答した人はいませんでした。



4. 今後の活動について

問 13 貴団体が活動を行う上で、市にどのようなことを期待しますか。（当てはまるもの全てに○）

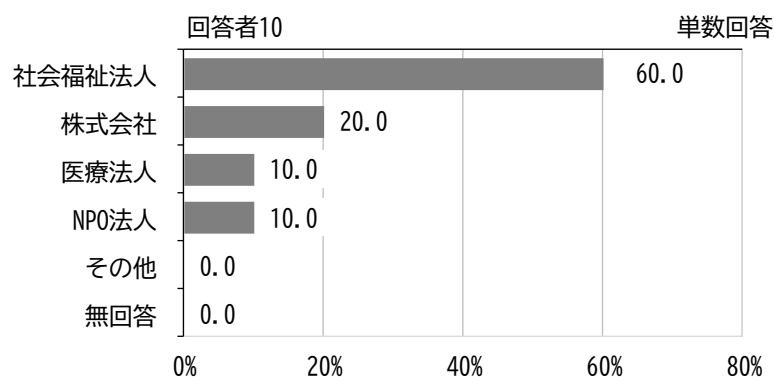
貴団体が活動を行う上で、市にどのようなことを期待しますかについて、「活動資金支援」（71.4%）が最も多く、次いで「団体や活動についての PR」（57.1%）、「会員募集の支援」、「他団体とのネットワーク化」、「設備・備品の充実」（42.9%）となっています。



Ⅲ 事業者アンケート調査結果

1. 貴事業者のことについて

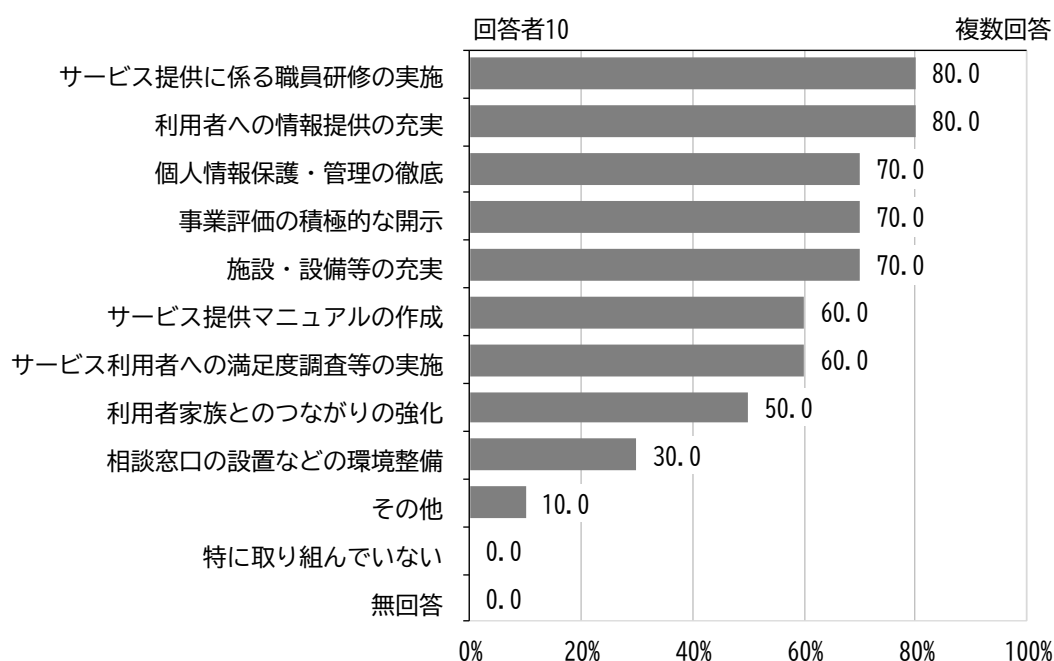
事業者の形態について、「社会福祉法人」(60.0%)が最も多く、次いで「株式会社」(20.0%)となっています。



2. 事業運営について

問1 貴事業者では、サービス提供に当たって、質の向上のために取り組んでいることはありますか。(当てはまるもの全てに○)

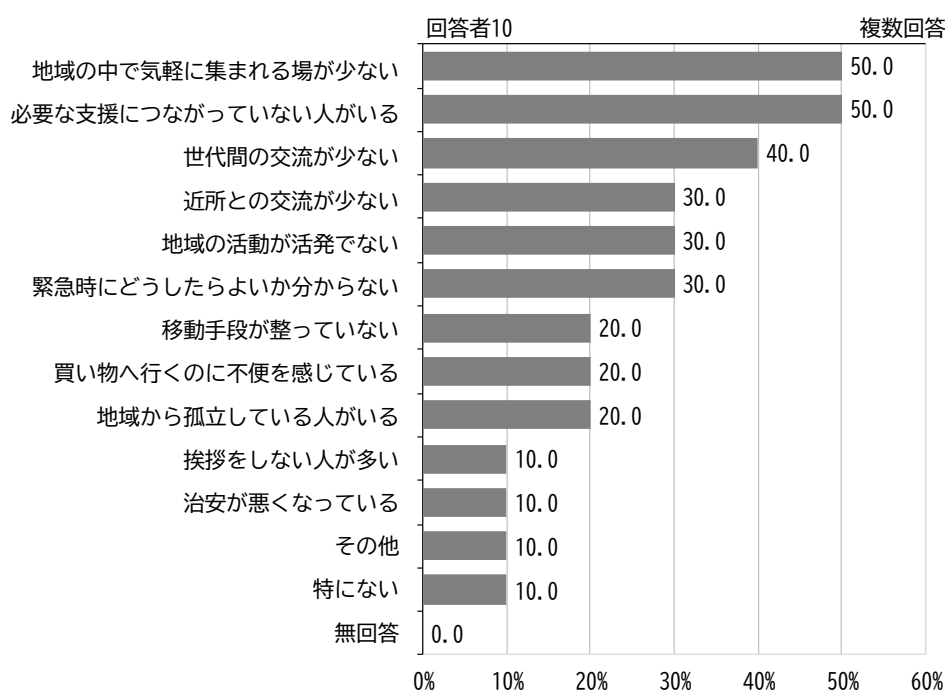
貴事業者では、サービス提供に当たって、質の向上のために取り組んでいることはあります。について、「サービス提供に係る職員研修の実施」、「利用者への情報提供の充実」(80.0%)が最も多く、次いで「個人情報保護・管理の徹底」、「事業評価の積極的な開示」、「施設・設備等の充実」(70.0%)となっています。



3. 地域の状況について

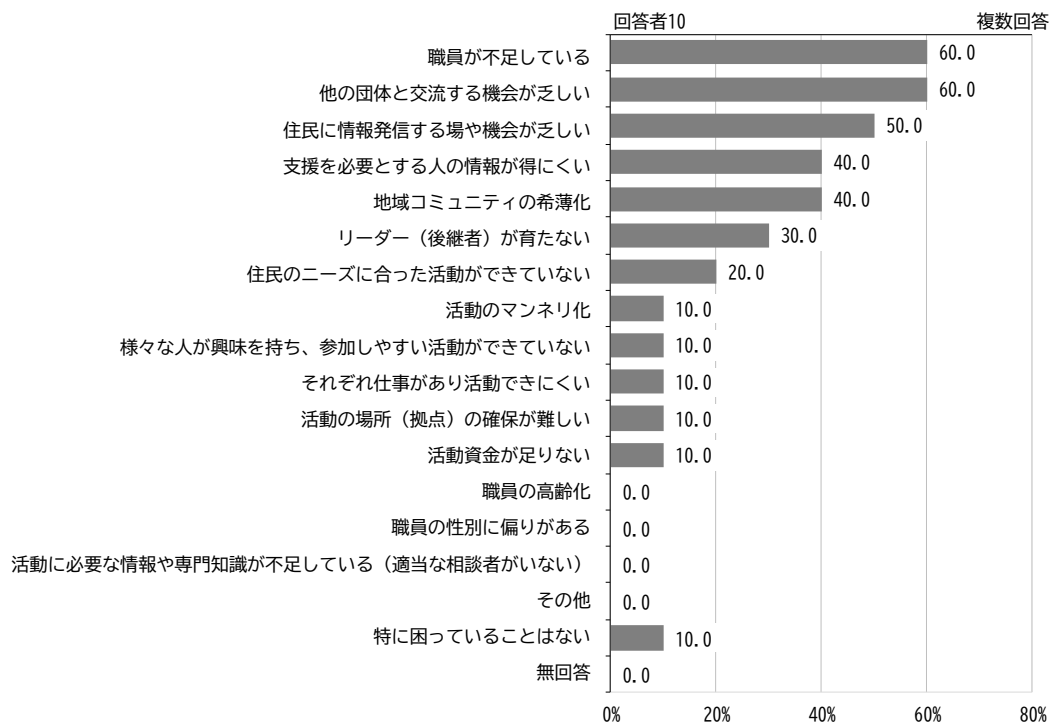
問3 地域の中で課題に感じることや、活動を通してよく聞く困り事は何ですか。（当てはまるもの全てに○）

地域の中で課題に感じることや、活動を通してよく聞く困り事は何ですかについて、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」、「必要な支援につながっていない人がある」（50.0%）が最も多く、次いで「世代間の交流が少ない」（40.0%）となっています。



問9 貴事業者が、地域の団体や機関、地域住民の方との交流や地域活動を行う上での課題等はどのようなことですか。（当てはまるもの全てに○）

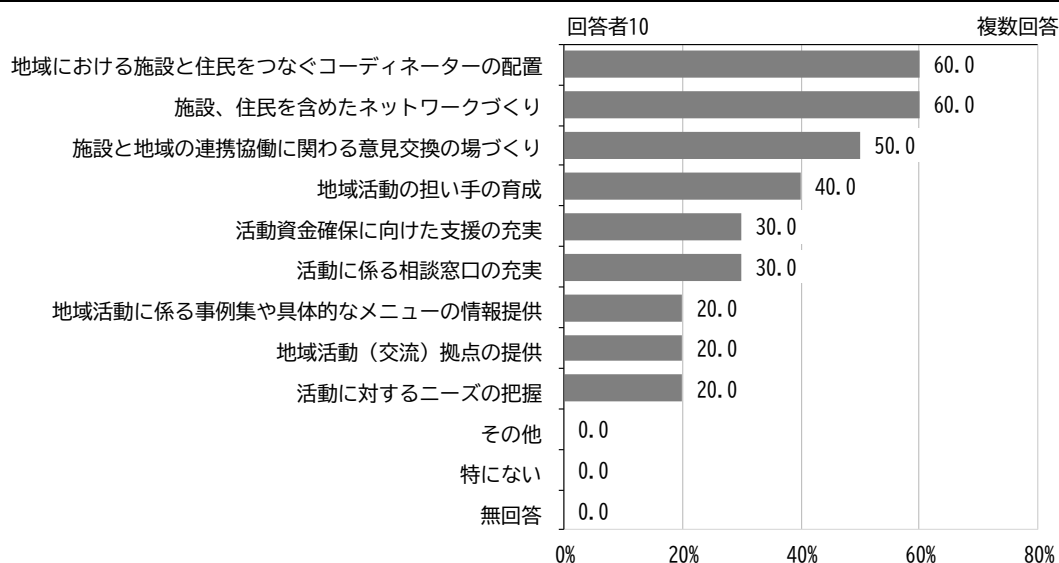
貴事業者が、地域の団体や機関、地域住民の方との交流や地域活動を行う上での課題等は何のようなことですかについて、「職員が不足している」、「他の団体と交流する機会が乏しい」（60.0%）が最も多く、次いで「住民に情報発信する場や機会が乏しい」（50.0%）となっています。



4. 今後の活動について

問 12 貴事業者として地域活動を進めるに当たって、市へ期待する役割は何ですか。（当てはまるもの全てに○）

貴事業者として地域活動を進めるに当たって、市へ期待する役割は何ですかについて、「地域における施設と住民をつなぐコーディネーターの配置」、「施設、住民を含めたネットワークづくり」（60.0%）が最も多く、次いで「施設と地域の連携協働に関わる意見交換の場づくり」（50.0%）となっています。



IV ヒアリング調査結果

1. 団体

■支援の必要な人・世帯を支える上での市の課題と、力を入れるべき取組

- ・ 障害者が一般就労をしていて福祉サービスを使っていないと相談支援事業所とつながっていない。サービスを使っていない方が心配になる。
- ・ 1事業所で引きこもりや未治療の方をずっと継続して支援というよりは、色々な方と見守りながら多くの事業所で協力できたらいい。
- ・ フードドライブはありがたいし、保護者からも喜ばれている。
- ・ 子ども食堂なのか、児童相談所なのか、どこを入り口にするかは別として、誰かがその家庭なり、その子が育ってきた環境あるいは生活環境を調べて、問題を解決していくようなことが本当の意味で犯罪防止対策になる。

2. 事業者

■地域の状況、市の課題

- ・ 協力雇用主が西東京市は少ないという現状はある。更生者であるということは伏せて仕事をしているケースはある。
- ・ 女性より、男性の方が孤立する傾向がある。西東京市に限らず、複雑な状況の家庭は増えると思う。支援を拒否するケースもある。
- ・ 支援につながらない人がつながらない理由は様々だと思うが、それを専門職だけでやるのは限界があるので、地域での日頃からの見守りが必要だと感じる。地域の顔見知りが増えることで、犯罪等の防止にもなると思う。
- ・ 大学と連携する仕組みを進めたい。各園と大学が単独でつながっている現状だが、市全体で大学と市内保育園の関係が深まる取組（仕組み）があるといい。
- ・ 地域で核となるような方に困ったときに相談する先を知ってもらっただけでも違うのではないかな。自分で相談に行ける人は問題ないと感じる。
- ・ 関係機関でさえ、成年後見制度への理解が十分に浸透していない。ヘルパーやケアマネジャーを含め、関係機関への普及啓発は今後の課題になってくる。

地域福祉に係るアンケート・ヒアリング調査結果報告書 (団体、事業者) 【わかりやすい版】

発行・編集：西東京市健康福祉部地域共生課

発行年月日：令和5年3月

〒188-8666 東京都西東京市南町 5-6-13(田無第二庁舎1階)

電 話 :042-420-2807(直通) FAX :042-420-2896

E-MAil:fukushisougou@city.nishitokyo.lg.jp